



インターネットでの情報提供	
提供予定月日	2月5日(水)

平成26年2月4日(火) 県政記者クラブ、郡上市・瑞穂市地元記者クラブ配布資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
県産材流通課	加工流通係	舟橋 勝	内線 3015
	木材生産係	臼井 規浩	直通 058-272-8487

## 生きた森林づくりの推進について

### ～木質バイオマス発電プラントに続き、大型製材工場の建設に着手～

県では、平成24年3月に策定した「第2期岐阜県森林づくり基本計画」に基づき、これまでに“植えて、育てて”きた森林資源を、今後は“伐って、利用する”という、林業活動を重視した「生きた森林づくり」に取り組んでいます。

その一環として、住宅の主要構造材等に使われるA材を利用する「大型製材工場」が今月末に着工し、昨年着工した小径木や根元材などのC・D材を利用する「木質バイオマス発電プラント」とともに、来年度中の稼働を予定しています。

これにより、既に稼働している、小曲材などのB材を利用する「森の合板工場」と併せて、県内で木材を余すことなく有効利用する生産体制が構築されます。

#### 記

#### 1 A材の需要対策：「大型製材工場の整備」

柱や梁桁など住宅の主要構造材（いわゆるA材）を生産する大型製材工場が、今月末に郡上市内で建設着工予定。平成26年度末に稼働し、年間約5万m<sup>3</sup>（将来的に10万m<sup>3</sup>）の木材需要が見込まれる。

##### ◇大型製材工場の概要

- ・総事業費：約40億円
- ・事業期間：平成26年2月工事着手、平成27年3月完成・稼働予定
- ・事業地：郡上市白鳥町
- ・事業面積：9ha
- ・事業主体：長良川木材事業協同組合（代表理事 大野 英輔）  
 <組合員>中国木材(株)（※）、(有)マルホ興産、中部林産(株)、東海木材(株)、岐阜県森林組合連合会、郡上森林組合、(株)鷺見製材
- ・整備施設：製材施設、木材乾燥施設、木材加工施設、貯木場
- ・木材使用量：年間約5万m<sup>3</sup>（将来的には年間約10万m<sup>3</sup>）  
 （参考：岐阜県の年間素材生産量 約36万m<sup>3</sup>（平成24年度実績））
- ・販売製品：柱、梁桁等の住宅用構造材（使用樹種はスギ、ヒノキ等）
- ・新規雇用：20～25名（工場での直接雇用）でスタート

（※）中国木材(株)…日本最大の製材企業で、本社は広島県呉市。木材の製材販売、原木の輸入販売、集成材の製材販売、バイオマス発電等を行う。

## 2 C・D材の需要対策：「木質バイオマス発電プラントの整備」

これまで有効利用されてこなかった小径木や根元材などの未利用木材等（いわゆるC・D材）を燃料とする「木質バイオマス発電プラント」が、平成25年10月に瑞穂市内で建設着工。平成26年秋に稼働し、年間約9万m<sup>3</sup>のC・D材の需要が見込まれる。

### ◇木質バイオマス発電プラントの概要

- ・総事業費：約28億円
- ・事業期間：平成25～26年度
- ・事業地：瑞穂市牛牧 岐セン(株)本社・穂積工場敷地内
- ・事業主体：(株)岐阜バイオマスパワー、(株)バイオマスエナジー東海
- ・整備施設：発電施設（5,000kw級、一般住宅11,000世帯分）、チップ製造施設
- ・木材使用量：年間約9万m<sup>3</sup>
- ・新規雇用：2社で合計15名程度
- ・備考：本施設は、平成25年9月19日に経済産業省から再生可能エネルギーの固定価格買取制度における発電施設の認定を受けている。

## 3 B材の需要対策：「森の合板工場の整備」

小曲材等の間伐材（いわゆるB材）を中心に、国産材を100%使用した合板を製造する大型の「森の合板工場」が、平成23年度から中津川市内で稼働。年間約10万m<sup>3</sup>のB材が供給されている。

### ◇森の合板工場の概要

- ・総事業費：約57億円
- ・整備期間：平成20～22年度 平成23年4月から稼働中
- ・事業地：中津川市加子母
- ・事業主体：森の合板協同組合（代表理事 井上 篤博）
- ・整備施設：合板製造施設
- ・木材使用量：年間9.7万m<sup>3</sup>（平成24年度）（使用樹種はスギ、カラマツ、ヒノキ等）
- ・合板生産量：年間310万枚（平成24年度）

<参考>

